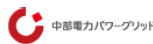


第54回需給調整市場検討小委員会
第70回調整力の細分化及び広域調達の技術的検討に関する作業会
資料3別紙修正箇所 新旧対照表

(修正箇所部分を抜粋)

(2025年4月16日修正分)

	修正前	修正後
P.63	1. 実績比較 1-1. 三次②必要量に対する予測誤差 ✓ 2024年度4月から10月における三次②必要量に対する予測誤差(前日予測値-GC予測値)を確認したところ、全コマ中の約18%が不足(三次②必要量<予測誤差)、約73%が予備(三次②必要量>予測誤差)となった。 三次②必要量に対する予測誤差のデレーションカーブ (縦軸：予測誤差[前日予測値-GC予測値]-三次②必要量) 不足 18% 余剰 73% 横軸：2024年4月～10月のコマ数(10,272コマ)に対する割合(%) 2 Copyright © Chubu Electric Power Grid Co., Inc. All rights reserved.	1. 実績比較 1-1. 三次②必要量に対する予測誤差 ✓ 2024年度4月から10月における三次②必要量に対する予測誤差(前日予測値-GC予測値)を確認したところ、全コマ中の約33%が不足(三次②必要量<予測誤差)、約60%が予備(三次②必要量>予測誤差)となった。 三次②必要量に対する予測誤差のデレーションカーブ (縦軸：予測誤差[前日予測値-GC予測値]-三次②必要量) 不足 32.8% 余剰 60.0% 横軸：2024年4月～10月のコマ数(10,272コマ)に対する割合(%) 2 Copyright © Chubu Electric Power Grid Co., Inc. All rights reserved. 【理由】中部エリアの不足・充足コマ割合に誤りがあったので修正しております。

	修正前	修正後
P.64	1. 実績比較 【参考】予測誤差（GC予測値に対する前日予測値）  ✓ 予測誤差（GC予測値に対する前日予測値）は、全コマ中約36%が予測から下振れ(前日予測＞GC予測)、約64%が予測から上振れ(前日予測＜GC予測)となった。 予測誤差のデユレーションカーブ (縦軸：予測誤差[前日予測値-GC予測値]) 下振れ ↑ 上振れ ↓ 縦軸：予測誤差 [MW] 横軸：2024年4月～10月のコマ数（10,272コマ）に対する割合（%） 3 Copyright © Chubu Electric Power Grid Co., Inc. All rights reserved.	1. 実績比較 【参考】予測誤差（GC予測値に対する前日予測値）  ✓ 予測誤差（GC予測値に対する前日予測値）は、全コマ中約63%が予測から下振れ(前日予測＞GC予測)、約37%が予測から上振れ(前日予測＜GC予測)となった。 予測誤差のデユレーションカーブ (縦軸：予測誤差[前日予測値-GC予測値]) 下振れ ↑ 上振れ ↓ 縦軸：予測誤差 [MW] 横軸：2024年4月～10月のコマ数（10,272コマ）に対する割合（%） 3 Copyright © Chubu Electric Power Grid Co., Inc. All rights reserved. 【理由】中部エリアの GC 予測値に対する前日予測値に誤りがあったので修正しております。

	修正前	修正後
P.65	1. 実績比較 1-2.三次②必要量の使用率 中部電力パワーグリッド ✓ 2024年度4月から10月における三次②必要量使用率の評価として、必要量が実際に再エネ予測の下振れ誤差に対応した状況(使用率)を確認したところ、必要量のうち約14%が再エネ予測誤差に対応していた。 ✓ 三次②は、再エネ予測の大幅な下振れに備えるために確保しており、上振れ時は使用されないこと、下振れ時であっても全て使用されるとは限らないため、一般的に使用率は高くならないものと考えられる。 三次②使用率 (予測誤差実績[前日予測値-GC予測値]※÷三次②必要量) 25.0 20.0 15.0 10.0 5.0 0.0 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 累計 13.4 5.5 20.8 17.1 15.7 10.3 17.7 13.7 ※再エネが上振れした場合の誤差は「0」、必要量を超過する下振れ誤差は必要量を上限とする。 4 Copyright © Chubu Electric Power Grid Co., Inc. All rights reserved.	1. 実績比較 1-2.三次②必要量の使用率 中部電力パワーグリッド ✓ 2024年度4月から10月における三次②必要量使用率の評価として、必要量が実際に再エネ予測の下振れ誤差に対応した状況(使用率)を確認したところ、必要量のうち約34%が再エネ予測誤差に対応していた。 ✓ 三次②は、再エネ予測の大幅な下振れに備えるために確保しており、上振れ時は使用されないこと、下振れ時であっても全て使用されるとは限らないため、一般的に使用率は高くならないものと考えられる。 三次②使用率 (予測誤差実績[前日予測値-GC予測値]※÷三次②必要量) 45.0 40.0 35.0 30.0 25.0 20.0 15.0 10.0 5.0 0.0 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 累計 29.4 18.9 42.5 42.2 40.8 35.8 42.2 33.5 ※再エネが上振れした場合の誤差は「0」、必要量を超過する下振れ誤差は必要量を上限とする。 4 Copyright © Chubu Electric Power Grid Co., Inc. All rights reserved. 【理由】中部エリアの誤差実績および使用率に誤りがあったので修正しております。

	修正前	修正後
P.67	1. 実績比較 1-3.気象状況による影響 (2/2) ✓ 2024年度と2023年度の4月から10月の三次②必要量に対する予測誤差を比較したが、特段の有意差は見られず、2024年度において気象状況に起因して実績誤差に影響を及ぼした特異事象は無かったと考えられる。 三次②必要量に対する予測誤差のデレーションカーブ (縦軸：予測誤差[前日予測値-GC予測値]-三次②必要量) 6 Copyright © Chubu Electric Power Grid Co., Inc. All rights reserved.	1. 実績比較 1-3.気象状況による影響 (2/2) ✓ 2024年度と2023年度の4月から10月の三次②必要量に対する予測誤差を比較したが、特段の有意差は見られず、2024年度において気象状況に起因して実績誤差に影響を及ぼした特異事象は無かったと考えられる。 三次②必要量に対する予測誤差のデレーションカーブ (縦軸：予測誤差[前日予測値-GC予測値]-三次②必要量) 6 Copyright © Chubu Electric Power Grid Co., Inc. All rights reserved. 【理由】中部エリアの三次②必要量に対する誤差実績の比較に誤りがあったので修正しております。

	修正前	修正後
P.71	2. 必要量が不足した断面における需給運用の状況 2-1.実需給における予測誤差 中部電力パワーグリッド ✓ 前述(1-1.)のとおり、全コマ中の約18%で不足(三次②必要量<予測誤差)が発生していたものの、これまでの間、予測誤差に起因した大幅な周波数低下等の事象は発生していない。 ✓ その理由として、実需給断面では三次②に加えて、二次②・三次①を用いて再エネ予測誤差に対応していることが考えられるため、実需給断面における『事前に確保したEDC相当の調整力（三次②、二次②・三次①）』と『再エネ予測誤差(前日予測値－実績値)』を比較した。 ✓ その結果、全コマ中の約98.5%が、事前に確保していた調整力を使用して予測誤差に対応していたことを確認した。他方、約1.5%は余力活用電源の余力に頼る運用となっていた。 実需給断面における『EDC相当の予測誤差分調整力』に対する『予測誤差』のデレレーションカーブ (縦軸：『前日予測値－実績値』－『EDC相当の予測誤差分調整力』) 縦軸：『前日予測値－実績値』－『EDC相当の予測誤差分調整力』 [kW] 横軸：2024年4月～10月のコマ数（10,272コマ）に対する割合（%） 10 Copyright © Chubu Electric Power Grid Co., Inc. All rights reserved.	2. 必要量が不足した断面における需給運用の状況 2-1.実需給における予測誤差 中部電力パワーグリッド ✓ 前述(1-1.)のとおり、全コマ中の約33%で不足(三次②必要量<予測誤差)が発生していたものの、これまでの間、予測誤差に起因した大幅な周波数低下等の事象は発生していない。 ✓ その理由として、実需給断面では三次②に加えて、二次②・三次①を用いて再エネ予測誤差に対応していることが考えられるため、実需給断面における『事前に確保したEDC相当の調整力（三次②、二次②・三次①）』と『再エネ予測誤差(前日予測値－実績値)』を比較した。 ✓ その結果、全コマ中の約98.5%が、事前に確保していた調整力を使用して予測誤差に対応していたことを確認した。他方、約1.5%は余力活用電源の余力に頼る運用となっていた。 実需給断面における『EDC相当の予測誤差分調整力』に対する『予測誤差』のデレレーションカーブ (縦軸：『前日予測値－実績値』－『EDC相当の予測誤差分調整力』) 縦軸：『前日予測値－実績値』－『EDC相当の予測誤差分調整力』 [kW] 横軸：2024年4月～10月のコマ数（10,272コマ）に対する割合（%） 10 Copyright © Chubu Electric Power Grid Co., Inc. All rights reserved. 【理由】中部エリアの不足コマ割合に誤りがあったので修正しております。

	修正前	修正後
P.72	2. 必要量が不足した断面における需給運用の状況 2-2. 不足した断面での実需給の運用状況 ✓ 2024年度4月から10月における三次②不足量が最大となった断面について、実運用の状況を確認したところ、需要ならびに再エネインバランスに対して三次②、二次②・三次①や余力活用電源および広域需給調整による調整力で適切に対応していたことを確認。 三次②不足量が最大の断面 (6/17 14:30 不足量1,664MW) FIT配分予測とFIT発電実績(6/17) 11 Copyright © Chubu Electric Power Grid Co., Inc. All rights reserved.	2. 必要量が不足した断面における需給運用の状況 2-2. 不足した断面での実需給の運用状況 ✓ 2024年度4月から10月における三次②不足量が最大となった断面について、実運用の状況を確認したところ、需要ならびに再エネインバランスに対して三次②、二次②・三次①や余力活用電源および広域需給調整による調整力で適切に対応していたことを確認。 三次②不足量が最大の断面 (6/17 14:30 不足量1,956MW) FIT配分予測とFIT発電実績(6/17) 11 Copyright © Chubu Electric Power Grid Co., Inc. All rights reserved. 【理由】中部エリアの不足した断面での実需給の運用状況に誤りがあったので修正しております。

	修正前	修正後
P.78	5. 必要量テーブルの補正処理 5-2. 特異値を補正する閾値 ✓ 下図のとおり、補正処理の違いによる三次②必要量に対する予測誤差を比較したところ、補正処理を行うことで補正処理なしの場合に比べて、不足側では高さ(MW)、コマ数ともに減少し、他方、予備側では高さ(MW)、コマ数ともに増加した。 ✓ また、現在の補正処理（1%）は、閾値を設けずにすべて補正処理を行った場合と同程度であった。 三次②必要量（各補正）に対する予測誤差のデューションカーブ （縦軸：前日予測値 - GC予測誤差 - 三次②必要量（補正無し、すべて補正(0%)、補正値1%、補正値3%） 横軸：2024年度4月～10月のコマ数に対する% 17 Copyright © Chubu Electric Power Grid Co., Inc. All rights reserved.	5. 必要量テーブルの補正処理 5-2. 特異値を補正する閾値 ✓ 下図のとおり、補正処理の違いによる三次②必要量に対する予測誤差を比較したところ、補正処理を行うことで補正処理なしの場合に比べて、不足側では高さ(MW)、コマ数ともに減少し、他方、予備側では高さ(MW)、コマ数ともに増加した。 ✓ また、現在の補正処理（1%）は、閾値を設けずにすべて補正処理を行った場合と同程度であった。 三次②必要量（各補正）に対する予測誤差のデューションカーブ （縦軸：前日予測値 - GC予測誤差 - 三次②必要量（補正無し、すべて補正(0%)、補正値1%、補正値3%） 横軸：2024年度4月～10月のコマ数に対する% 17 Copyright © Chubu Electric Power Grid Co., Inc. All rights reserved. 【理由】 中部エリアの特異値補正毎の充足・不足コマ数割合に誤りがあったので修正しております。

	修正前	修正後
P.185	2. 共同調達の必要量低減効果について-必要量の低減および安定供給- 2024年4月～10月において、三次②必要量に対する予測誤差（前日予測値－GC予測値）を確認したところ、中西ブロックで予備側となる断面は共同調達により、85.2%から84.5%に低減、上位3断面の平均でも5813MWから4913MWに低減できた。 - また不足側は13.4%から14.0%への増加、上位3断面の平均も2667MWから3204MWへの増加にとどまっており、安定供給上、特段の問題は生じていなかった。 中西ブロック（中部・北陸・関西・中国・四国・九州）における三次②必要量に対する再エネ予測誤差（前日予測－GC予測－三次②必要量） 予備上位3断面 4926MW 4926MW 4886MW 予備下位3断面 5902MW 5902MW 5634MW	2. 共同調達の必要量低減効果について-必要量の低減および安定供給- 2024年4月～10月において、三次②必要量に対する予測誤差（前日予測値－GC予測値）を確認したところ、中西ブロックで予備側となる断面は共同調達により、84.9%から84.2%に低減、上位3断面の平均でも5813MWから4913MWに低減できた。 - また不足側は13.7%から14.3%への増加、上位3断面の平均も2720MWから3257MWへの増加にとどまっており、安定供給上、特段の問題は生じていなかった。 中西ブロック（中部・北陸・関西・中国・四国・九州）における三次②必要量に対する再エネ予測誤差（前日予測－GC予測－三次②必要量） 予備上位3断面 4926MW 4926MW 4886MW 予備下位3断面 5902MW 5902MW 5634MW 【理由】 中西ブロック共同調達の三次②必要量に対する予測誤差の充足・不足に誤りがあったので修正しております。

	修正前	修正後
P.186	2. 共同調達の必要量低減効果について-使用率の向上- 8 ■ 2024年度4月～10月において、共同調達の必要量低減効果として、三次②使用率を東ブロックで1ポイント、中西ブロックで1ポイント向上することができ、調整力をより効率的に運用することができた。 東ブロック全体（東北・東京） における三次②使用率 中西ブロック全体（中部・北陸・関西・中国・四国・九州） における三次②使用率 2024年4月～10月で1ポイント向上 2024年4月～10月で1ポイント向上 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 累計 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 累計 ■ 単独調達 ■ 共同調達 ■ 単独調達 ■ 共同調達 2. 共同調達の必要量低減効果について-使用率の向上- 8 ■ 2024年度4月～10月において、共同調達の必要量低減効果として、三次②使用率を東ブロックで1ポイント、中西ブロックで1ポイント向上することができ、調整力をより効率的に運用することができた。 東ブロック全体（東北・東京） における三次②使用率 中西ブロック全体（中部・北陸・関西・中国・四国・九州） における三次②使用率 2024年4月～10月で1ポイント向上 2024年4月～10月で1ポイント向上 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 累計 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 累計 ■ 単独調達 ■ 共同調達 ■ 単独調達 ■ 共同調達 【理由】 中西ブロック共同調達の使用率に誤りがあったので修正しております。	